

---

# 孤独死

宮田昭裕

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

孤独死

### 【Nコード】

N1176D

### 【作者名】

宮田昭裕

### 【あらすじ】

綺麗ごと、では語れない人生の終る瞬間を描写したものになっていれば良いのですが…

記憶が薄れていく中、振り返った…。

昭和という名の年号に生きていた、貧乏な生活をしていたが…  
楽しそうな私がいる。

冬の我が家…暖かいんだ、とても暖かいんだ。

オンドル（ロシアで使用される床暖房器具）の窓からほんの  
少し見え隠れする炎…夢の中…ボロボロになった昔話の絵本…。

カラスが石をくわえて何個も何個も運んで来て水を飲む…

王子の為なのか、燕は貧しい人々に宝石を運び最後は王子の像  
の足元で死んでしまう…。

もう、あの頃の私には戻れないんだなあ…。

生きる為に、してきた様々なことは…無駄だったんだろうなあ  
…。

仕事や家庭は、いったい何の為にあったのだろうか…。

運命と宿命…努力と才能…今日、貴方は一生懸命、生きてまし  
たか？一年前の今日、貴方は何をしていたか、覚えてますか？

今夜は冷えるなあ…空から雪が…道理で寒いはずだあ…雪は天から  
の手紙と言っていた物理学者が昔いたことを思い出した…何で、こ  
んな時に…私の蠟燭の炎が、後、僅かで消えてしまいそうなの時  
に…中谷…宇吉郎…あの先生の言葉が…『天災は忘却されし頃に再  
び訪れる』

私の今の状況がそれと同じなのかも知れない…まさか…そのま  
さか、が今、私に訪れたのだろうか…つまらない人間が、つまらない  
死に方をしただけ…ただそれだけのこと…会えるかなあ…会ってく  
れるかなあ…懐かしいなあ…祖母の笑顔は優しいなあ…父と一緒に  
働いていた叔父さん達や叔母さん達…懐かしいなあ…手ぶらで来て  
しまったけど…いろんな話をしましょう。

ありがとう。

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1176d/>

---

孤独死

2010年10月21日13時58分発行